
黒ウサギ隊の5人組（仮）

田中太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒ウサギ隊の5人組（仮）

【Nコード】

N1007Z

【作者名】

田中太郎

【あらすじ】

ドイツ軍特殊IS部隊、黒ウサギ隊に5人の男が入った。

彼らは、ドイツ軍の黒い5連星（笑）と呼ばれるようになる。男たちだった。

プロローグ（前書き）

駄文ですが、よろしくお願いします。

全200話を予定しています。
長丁場ですね。

プロローグ

IS——インフィニットストラトスの登場によって世界は変わった。
女尊男卑の世界に変わった。

何故なら、ISは基本的に女性にしか反応しないからだ。

そして、その女尊男卑は軍隊にまで及んでいった。

ある日のドイツ軍基地…

金髪の男性がため息をつきながら歩いていた。

「…ハア……」

そして、特別技術課と書かれたプレートのあるところへ入る。
中には、4人ほどの人が居た。

「皆、聞いてくれ。」

金髪の男性は、その金髪を掻き上げ言うと4人は、金髪の男に注意
を向けた。

「今日の新パーツ、次世代型ミサイル試作機ver2.5のテスト
は中止になった。

（くそ、最近こればっかだ…）」

金髪の男も落胆しているように、他の4人も目に見えるように落胆している。

「またですか？これで138回目ですよ？」

語尾を伸ばして喋る長い黒髪に黒メガネの青年は、バルト。

「また、ISつか？うざいっすね、IS！」

部活等の後輩の様な喋り方をし、短髪の男はカーター。

「……………（・ω・）」

無言の彼は、ジャン、ニット帽をかぶっており、一度も外したところ見た事がないそうだ。ちなみ、FPSをすると人が変わるらしい…

4

「それで？一応理由を聞きましょう。」

茶髪に眼鏡で丁寧な口調のおっさん（今年35歳）はアロン。似非紳士だ。

「カーターの言うとおり、ISの模擬戦をやるからそこどけ！…だそうだ…」

そして、この金髪の男はアルフレッド、通称アル、ちなみにこのリーダーである。

「やっぱりですか…」

アロンは、少しだけ残念な顔をする。

そして、部屋の空気が重くなる。
するとアルが…

「ま、こういう時は…呑みますか！」

そう言って、どこからかウイスキーと人数分のグラスを出す。

「おお！太っ腹っすね！いつもは、安いカップ酒なのに…」

カーターは、嬉々として、そのグラスを受け取り、ウイスキーが注がれると思いつき破顔する。

「……………（＾Ｏ＾）／」

ジャンは、声には出さないがうれしそうな顔をしている。

「いいのですか？勤務中ですよ？」

アロンは、そんな真面目な事を言っているがしっかりとグラスを持っている。

「細かい事は、気にするなですよ…」

にこにこしながら職務放棄宣言する、バルト。

そして、全員にウイスキーが渡った。

「それでは、か——『ちょっと待って下さい。』……なんだよ？」

アルが乾杯しようとする、アロンによって遮られる。

「そういえば、今日、なんか初めて男がISを動かしたそうですよ。」

アロンは、メガネを押し上げる。

「おお！そいつは、すごいな！ドイツからでもないかな？」

「そうです。それを確かめるために、とりあえず今ドイツ軍では、ISを

各部隊ごとに回しているんです。ちょうど家に回ってきているのですが、

私たちは、全員試しましたので後は、アルだけです。」

アロンが長々と説明をしていると、カーターがISを何故か、かっいでくる。

「ふうん…（あいつらは、ダメだったのか…）それじゃ、試してみるか！」

アルがISに触れるとキンと、甲高い音を上げて、起動する。

「……………！と、とりあえず、上に報告を…」

「そ、そうっすね。」

「……………(＋|＋)」

「さ、さすが」

「……………mjk」

いち早く石化の解けたアロンが上に電話をかけるが、他の人たちは、皆動揺している。

そして、当人であるアルは…

「……………(ゑ？俺、どうなの？)」

泣いていた。

アロンが、上の人に電話をして数分後、上の人3人があわただしく駆けこんできた。

もちろん、ウイスキーは処分済みだ。胃の中に…

「……………(酒臭い…) んん！」

「「「「ビクッ！(バレタ！？)」」」」」

「?…アルフレッドⅡバウムガルト少尉」

高級軍人の一人がアルのフルネームと階級を言う。

「は、はい！」

緊張したアルは、声が裏返っている。

「……貴官は、本当にISを起動できるのか？」

さつきとは違う高級軍人がアルに疑問を抱く。

「出来ます。」

「では、実演したまえ。」

ちよび髭が似合う高級軍人が、偉そうに命令する。
実際に偉いのだから当たり前と言えば当たり前だが。

「はい（なんで、こいつらこんなに息あってるの？）」

嫌な顔一つせず、ISの起動を始める。
キイーン、先ほどと同じ様に起動する。

「おお！我がドイツでも…！」

高級軍人が感嘆の声を漏らす。

「……よし！それでは、貴官には本日付で黒ウサギ隊
シュバルツエア・ハーゼ
に異動を命ずる！」

ちよび髭の高級軍人がまたもや、偉そうに命令する。

「はい…」

アルは、この特別技術課には特別な思い入れがあり、
今さらの異動は、かなり堪えるようだ。

その後、アルは二階級特進し、大尉となり
黒ウサギ隊に異動していった。

特別技術課のメンバーは：

「行ってしまいましたね。」

「そうっすね。」

「……………(T|T)」

「なんか、寂しいですね」

感傷に浸っていたら：

ひょこっと、高級軍人が顔を出している。

「……＼(◎◎◎)／！」

それに気付いたジャンが驚きのあまり、座っていた椅子から転がり
落ちた。

「ジャン！どうしたんっすか？」

カーターが、ジャンを起こすとジャンは、高級軍人の方を指さす。

「？うお！！びっくりしたっす。」

「…無礼だね、君たちは…」

高級軍人の額には、青筋が出ている。

「申し訳ありません。」

似非紳士が謝るが、依然として高級軍人の額の青筋は消えない。

「まあ、いいだろう。」

君達4人もバウムガルト大尉と共に、黒ウサギ隊に異動だ。

大尉の強力な脅し——推しによって君たちの異動が決まった。」

高級軍人は説明するにつれて、どんどん顔が青くなって行くことからアルが、どんな脅迫したかを考えると身震いする。

「そういうことだから、今日中に異動しとくように、では。」

そう言い残し、去っていく高級軍人。

「「「……………」」」」

そして、4人は無言のまま荷物をまとめて黒ウサギ隊に向かった。

4人は、確かに感じていた、次の日は波乱の一日になると…

プロローグ（後書き）

感想待っています。

タイトルは、仮なので良いのがあったら教えてください。

次は、専用機が公開されると思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1007z/>

黒ウサギ隊の5人組（仮）

2011年12月3日21時56分発行